



2024 サポーターカンファレンス議事録

開催日/場所：2024年12月21日（土）/長野市生涯学習センター

登壇：株式会社長野パルセイロ・アスレチッククラブ

代表取締役社長 鷲澤幸一、スポーツダイレクター 西山鉄平、強化担当 旗手真也

司会：株式会社長野パルセイロ・アスレチッククラブ 広報担当部長 森脇豊一郎

<司会：森脇>

事前にたくさんのご質問をいただきありがとうございました。

分類すると、約80%が「クラブ経営」に関する、「チーム強化」に関するものでしたので、鷲澤社長と西山SDより皆様にお話をさせていただいた後に、質疑応答の時間を設けたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【クラブ経営について】

<鷲澤>

本日は沢山の方にご参加いただきまして誠にありがとうございます。例年の倍の参加申し込みをいただきました。

当然今シーズンに対する不満等が沢山あると思っていますが、まだ本当に興味を持っていただいているということに心から嬉しく思います。

事前質問を沢山頂戴いたしました。当然、厳しいコメントが沢山ありました。それを踏まえた上で、まず経営に関して私の方からお話をさせていただきます。

この数年間の体たらくのチーム成績につきましては、大きな要因は経営にあると自覚しています。

経営が落ち着かず、しっかりしていないことによるチームへの影響というのがとても小さいものではないだろうと特に今年は感じています。

株式会社化してから18年だと思いますが、ずっと役員をやっているのは私だけであり、そういった意味で私の責任は本当に重いと思っています。

その一つ、今回今年現れてしまったのが「条件付きライセンス交付」の問題です。

条件付きになった理由は、年末に債務超過に陥らないことを証明しきれなかったということです。当然、9月10月の段階では債務超過ではありませんでした。審査を迎えたとき、12月に債務超過に絶対にならないということを事前に審査員に証明できなかったことが一番の要因です。

増資を様々な方をお願いをし、その中で一番大きかったのが長野市開発公社様であります。

しかしながら、長野市開発公社という組織が個人で一人で決められるものではなく、理事会や社員総会といったものを経て正式に決定することでしたので、増資の確約をいただいていたとしても、それを証明するものがありませんでした。段取りとして、10月11月を経過しないと増資ができなかったということが要因です。最終的には、増資をしていただきまして、11月末にJリーグからの条件付き解除となりました。

なぜ長野市開発公社様が増資に協力いただけたかという理由につきましては、後ほど説明させていただきます。

この20年間、今年だけじゃなく、毎年毎年何とかその年を凌ぐこと、翌年に繋げていくことが精一杯で長期的な視野に立つことができていませんでした。

10年以上前、まだ地域リーグに所属していた時は、将来の明確なビジョンがあり取り組んでいたつもりです。しかしながら、J3在籍期間が長引く中で、次第に長期的な視野を失い、なんとかその年その年を凌ぐことが精一杯となりました。

私も含めて皆本業を持ちながら役員会を形成しており、我々が直接的に会社経営の中核になるのは無理です。従いまして、昨年の段階からプロのJリーグ経営者集団、経営者に任せたい。そのような体制を取りたいと思い、人選や折衝をしてきました。

AC NAGANO PARCEIRO



PRIDE of NAGANO

AC NAGANO PARCEIRO

今年の夏の段階で、来年度、来年4月から社長を担っていただく方は内定をいたしました。大手企業に勤めていて、長野支社長を長年やってらっしゃいましたので、長野の経済界ともしっかり縁を結んでいる方であります。その方は、サッカー界にも凄く精通している方で、私以上にサッカー界の人脈がある方です。

しかしながら、来年4月からの着任であるため、今村社長に2025年3月末まで頑張っていたくださったのですが、体調を崩されてそういうことにはいけなくなり、11月の頭から社長交代をし、私が引き受けるという形になりました。まさか、来年3月までのたった5ヶ月間だけの社長ですということ、世間の皆様にお伝えするわけにもいかず、本日サポーターの皆様それぞれにお伝えするのは初めてです。腰掛け的にやっていると思われる方も仕方ないですが、決してそんなことはありません。私はこの5ヶ月間に関しては一生懸命社長業をやっていますし、これからもやります。しっかりした形で次期社長にバトンタッチができる体制を作りたいと思っています。

また、その方だけではなく、副社長を置きます。その方は、Jチームの経営に10年以上関わり、そのクラブのチーム基盤を作った方です。もう一人、Jチームの現在の取締役の方にも加わっていただく予定であります。次期経営陣にバトンタッチをして初めてプロサッカークラブ経験者による経営陣となりますので、今しばらくお時間をいただきたいと思います。そのための準備をしっかり行ってまいります。

来年からアカデミーの社団法人化をします。

1月から新しい社団法人として、理事長には鹿田というエルザの時の最後のキャプテンですが着任します。

また、元エルザ、元パルセイロのレジェンド級の選手などを招きます。その意図は、長野に対する思いを醸成することにあります。

今まで20年間30年間やってきた長野のサッカーに対する思いを持った人たちに、改めて来てもらって支援してもらい、一緒になってやってもらうという体制を作ります。株式会社の方はJリーグのプロの経営者集団とし、アカデミーは社団法人化という体制にします。

アカデミーを社団法人化する目的は、プロチームではなく子供たちであれば支援するという企業の皆様の支援をいただきたいということ。社団法人であれば行政や他からの支援を受けやすくなると思います。西山鉄平スポーツダイレクターがアカデミーを含めて全部を見ながら創っていくということが非常に重要となります。

長野市開発公社様の増資の件です。本件は、単に今の現状を助けるということではなく、今後パルセイロと開発公社で大きなビジネスを一緒にやっていくことを考えています。南長野運動公園の横に新しい人工芝グラウンドの整備が始まっています。これは2028年の国民スポーツ大会の準備に向けてのことですが、将来的にクラブハウスを有し、パルセイロに関わる皆様が集える場所を創りたいと考えています。

また、再来年からJリーグはシーズン移行をします。2025シーズンはこれまでどおり。2026シーズンは半年間だけのシーズンを戦い、8月から2026-27シーズン（秋春制）が開幕をいたします。今までは1月がシーズンオフ期間でしたが、これからは8月がシーズンオフ期間となります。この場合、シーズンオフ期間のキャンプ地誘致の主戦場は北海道になると思います。我々としては、長野をキャンプ地に選んでいただいて、長野に多くの方が訪れるようにしたいと考えています。長野は新幹線で東京からすごく近いので、長野に来ればちょっとバスに乗れば飯綱という標高1000mの場所があります。現在グラウンドは1面ですが、もう2面3面と、長野市開発公社と一体となって芝生のグラウンド整備を行っていくつもりです。夏の菅平がラグビーのメッカであるように、飯綱を夏のサッカーのメッカにしていきたいと考えています。従いまして、芝管理が重要になってきますので、長期的な視野に立ち、このたびの増資に応じていただけることとなりました。

それを我々の大きなターニングポイントにしていきたいと考えています。

長野Uスタジアムの芝生問題について。今年も大変苦労しました。両チームの選手に危険が生じる状況であり、早急に芝生の張替が必要ですが、国体整備を見据えて大規模改修は2年後となってしまいます。芝生の養生作業がこれから始まりますが、約1年半かかります。それを長野Uスタジアムに張り替える作業は、2年後の今頃、きっと2年後のシーズン途中になるかと思えます。

AC NAGANO PARCEIRO



PRIDE of NAGANO

AC NAGANO PARCEIRO

また、現在の芝生の下配管が詰まってしまっており、水やりがうまくできていないということも大きな要因ですので、ピッチを全部掘り直し、配管工事からやり直します。長野市様には大きな決断をいただくことになりました。大規模工事期間中は、おそらく東和田や他の施設での代替開催があり得ると思いますが、少し長い目で見守っていただきたいと思います。

皆様からの質問の中に、「今年、大手からの買収があったのにそれを断った」ということを、複数の方が書いていました。正直、そんな噂があったことを当方が驚いています。エンターテインメントの会社が赤字経営のJクラブを買いみたいみたいな話があったことは確かですが、交渉以前の問題であった、というのがその話かもしれません。

また、タイの大きな資本家が51%の株を提供するなら今すぐ買うよ、という話も確かにありました。信用関係を構築してから51%の株式の話を見せてくださいと返事したら、その話もなくなりました。買収の話が正式にあって、それを断ったという話ではありません。

今後、もし本当に信用できる相手がパルセイロに興味を持ち、正式に買収をしたいという話であれば、交渉のテーブルに着いてしっかりと協議し、長野のためになる話であれば受けても構わないと思っています。

私からの話の最後になりますが、今年J3残留を決めるまで長い時間がかかってしまったこと。自力で決められなかったことに対し、皆様に心よりお詫び申し上げますし、私もサポーターとして本当に悔しい思いでした。

そのような状況の中、社長としての私の一番の仕事は、スポーツダイレクター、強化責任者の人選でした。長期的な視野で長野のために真面目に誠実に取り組んでいただける方、経験値を持っている方を選任すること。本当にこれは慎重に行いました。しかしながら、西山哲平さんなど、様々な方と今後のことをお願いをしている中で、やはりJ3残留が確定しないとファイナルアンサーをいただくことができない状況であったと思います。

最終的に、西山鉄平さんにスポーツダイレクターをお引き受けいただけることとなり、私にとっては100点満点の人選だと思っています。西山さんと一緒に、これから長期的に、長い目で見て仕事ができることを嬉しく思いますし、皆様のご期待に応えることができると思いますので、信用をいただきまして、よろしくお願ひ申し上げます。

【チーム強化について】

<西山>

まず大前提として、強いクラブを作るには、サッカー（フットボール）的な側面と経営の側面、この両輪が回らなければ強いクラブにはならないと思っています。その中で、鷲澤社長から先ほどお話しありましたように熱いお言葉があり、私自身賛同させていただき、就任を決意させていただきました。

ここからは私のフットボールの側面に関して説明をさせていただきます。

私のミッションは2つあると思っています。

1つ目は、まずJ1を逆算したチームづくり。そしてもう一つはアカデミーを含めた組織づくりになると思っています。

まず最初にそれらを実行するにあたり、フットボールフィロソフィー、どんなサッカーをこのクラブはしていくのかということを策定していきたいと思っています。

まだこれという言葉を作れていませんが、ベースとしてアグレッシブ、ハードワーク、戦う姿勢を前面に出しつつ、それらをベースに戦術的な要素を乗せていくピラミッドをイメージしています。その土台として絶対的に必要なのが戦う姿勢だと思っています。その土台があって初めてその上に戦術的な要素が乗っかると考えています。これは絶対逆ではありませんし、並列でもないと思っています。

そういったサッカーを体現してくれる人材として藤本主税氏を招聘しました。藤本監督はそれを体現してくれると思いますし、かつ、我々のクラブはまだまだ予算的に厳しい部分があります。成熟した、完成した選手を獲得できるクラブではないと認識しています。藤本監督の選手育成力が重要となります。もちろん監督未経験ではありますが、私が大分に在籍している時から、藤本氏が熊本のコーチングスタッフにいましたので、地理的に近い関係でよくトレーニングマッチを行っていました。トレーニングマッチで藤本氏がBチームを指揮している様子や選手へのアプローチを間近で見っていましたので、彼が本当に最適であると思っています。

AC NAGANO PARCEIRO



PRIDE of NAGANO

AC NAGANO PARCEIRO

次に、J1 を逆算したチーム作りにおいて言いますと、正直、来シーズンは基盤作り、ベース作りの 1 年になると思っていただきたいです。

監督も初めてですし、私自身も新任です。クラブの予算規模も上を目指すにいきついていない現状がありますので、高みを目指し、昇格を目指して戦いますが、来期はベース作りの年であるをご認識いただければと思います。シーズン移行期前の 2026 ハーフシーズンは、しっかり育成する時期となります。最速でシーズン移行期 1 年目に勝負をかけることが理想ではありますが。しかしながら、ベースをしっかりと作り選手育成をし、勝負をかけるのはもう 1 年先かなと考えています。

私は、外から来た人間として、長野はサッカー専用スタジアムがあったり、オリンピックを経験した街であり、非常にポテンシャル感じています。私の個人的な見解かもしれませんが、J2 に上がりさえすれば、もの凄く爆発力あるクラブだと思っていますので、何としても J2 にまず上がりたいと思っています。

次に組織づくりですが、アカデミーを強化したいと思っています。

これはトップとアカデミーの風通しをまず良くし、カテゴリーアップと言いますが、例えば、中学生年代で優秀な選手がいたら高校生年代でプレーさせる。高校生年代で良い選手がいればトップチームでプレーさせる。カテゴリーアップを行い、どんどん良い刺激を入れていき、想像以上の選手の成長を促したいと考えています。カテゴリーアップさせる判断基準としては満を持してあげるではなく、足りないだけでも可能性のある選手を上で経験させます。それにより、選手の成長スピードが加速すると思っています。トップチームに U-18 の選手をどんどん受け入れていきたいですし、まだ資金力に乏しい我々がアイデアでなんとかできる施策だと思っています。そして、これから策定するフットボールフィロソフィーも、アカデミーに浸透させていきたいと思っています。

将来的にはトップチームのスターティングイレブンのうち、3 名から 4 名がアカデミー出身選手で占めたいと思います。これが地元の方に愛されるチームになることに繋がると思いますが、かつ、そういった選手たちも、もしかしたら将来的に羽ばたいていくと思っています。その時にしっかり移籍金を置いていってもらい、移籍金収入を得ていくというスキームも作っていきたくと思っています。しかしながら、アカデミー強化をし、移籍金を生む仕組みづくりというのは当然ながらかなりの時間が必要です。長期的にみていただきたいですし、そこに至るまでには、大学新卒を多めに獲得し、育成しながら最終的に移籍金収入を得ていくような形にしていきたいので、先ほど冒頭にお伝えした通り、J1 昇格を逆算したチーム作りをこれからやっていきます。そして、組織的にアカデミーを含めて強化していきます。以上が、私の第一のミッションだと思っています。

実はホーム最終戦、試合を見させていただきましたが、ゴール裏を見て本当に感動しました。

あれだけの熱気、本当に嬉しく思いましたし、それも私がこのクラブに就任を決断する要因の一つだったと思っています。ゴール裏のエリアの熱量をもっともって広げていきたい。スタジアム全体をそのような熱で埋めていきたいと思っています。そのためには、まず来てください、応援してくださいではなく、応援したいと思っていただけるようなクラブ、チームを創ることが先決だと思っています。アグレッシブで本当に戦う集団を作りますので、ぜひとも後押しをしていただきたいと思っています。先ほどお伝えしたとおり、まだまだ来年はベース作りです。もしかしたら皆様のご期待に応えられない部分もあるかもしれませんが。

しかしながら、諦めない姿勢や戦う姿勢で表現していきたいと思っていますので、温かく見守ってくださればと思います。

プロの世界ですから、そういった言葉では済ませられないことは承知していますが、本当に、私自身、クラブの成長に対して、自身のサッカーキャリア全てかけるつもりですので、ぜひともよろしく願います。

AC NAGANO PARCEIRO



【質疑応答】

【Q. Jリーグが公開している経営情報開示資料（数字）を見て、賛否あると思いますが、WEリーグ参加への時期・判断が合っていたのか？】

（回答：鷺澤） 過去、パルセイロ・レディースがなでしこリーグ1部に在籍していた時代の観客動員数はトップクラスでした。浦和やベレーザよりも沢山の方々に観に来ていただいた時期がありました。本当に嬉しいことでしたし、大変ありがたく、レディースチームだけでスポンサー獲得ができるだろうという考えがあったのは事実です。しかしながら、WEリーグに参入したからといって思うように収入が伸びない現状がありますので、見通しが甘かったと言われればその通りかもしれません。

（回答：森脇） 私が長野に着任させていただいた時、パルセイロ・レディースがなでしこリーグ2部に在籍していました。その時に、WEリーグ参入の話が持ちあがりました。WEリーグの大義名分は理念そのものであり、「サッカー、スポーツを通じて女性活躍社会の実現に貢献すること」です。長野は地方都市ですが、長野だけでなく北信越、あるいは日本の女子サッカーの普及発展に貢献するという意志で手を挙げたと理解をしています。その理念、社会的意義には大賛成ですが、ご質問をいただいたとおり、経営の観点だけを捉えると、経費が高騰しますが収入が爆発的に増えるとは思いませんでしたので、私とクラブに長年勤務しているスタッフは、一度WEリーグ参入反対の意見を社内で進言しました。その後、会社としてWEリーグに参入することが決議されたので、選手・チームのためにできることの最善を尽くして取り組んでいる、というのが現状です。

本当に選手スタッフは一生懸命に取り組んでいますので、引き続き熱いご支援いただければと思います。

【Q. 大卒1年目の選手の契約満了についてなど】

（回答：旗手） 大卒2名の選手契約の満了についてご質問ですが、まず契約締結の時点で単年契約でした。大学側と選手本人としっかり会話したうえでの契約でした。

また、Jリーグのルール上、契約満了や契約更新を伝えなければならない期限が決められています。従いまして、西山さんと新監督就任が決定する前に、選手の契約満了や契約更新の発表をさせていただいてるのは、Jリーグのルール、背景があるということをご理解いただければと思います。

【Q. 守備について、寄せや強度の甘さがあるのでそれを改善して欲しい】

（回答：西山） サッカーの原則として、ボールホルダーに強いく、これは当たり前だと思っています。昨今のサッカーのトレンドを見ても、それがより顕著になっていると思っていますので、スタンダードを上げると言っています。「スタンダードを上げる」の中には、ボールへの寄せもそうですし、プレスバックもそうですし、全てにおいてです。そしてもちろんオールプレッシングできるかどうかと言ったら、90分間やり続けるのは難しいと思っています。

相手とのパワーバランス、相手の方がクオリティが高い場合はそれがかなわないと分析すれば、もしかしたらブロックを敷いた中で、あるタイミングでサイドに追い込むという戦い方もあります。従って、基本的に前からアグレッシブに行きたいですが、それが常にできるかどうかというのはケースバイケースだと思っています。アグレッシブということを謳っている中で、前から奪いに行く、早い寄せでボールを奪うことは必須だと思っていますので、そのスタンダードを上げていきます。

藤本新監督と、ボールホルダーに対して左右中央にサポートを置こうと話しています。これも当たり前のことですが、そういうことを徹底していきます。クリアするタイミングでその選手に対するサポートをしっかりと構築できていけば逃げるクリアではなく、それがパスにつながる確率は上がります。しかしながら、当然クリアで逃げなければいけない場面もあります。「スタンダードを上げる」ことの一環だと思っています。



PRIDE of NAGANO

AC NAGANO PARCEIRO

【Q. クラブとしてどういう経営基盤でありたいのか、どういう経営体制であるべきなのか、どういう財務体制を作っていくべきなのか。

5年後10年後、どういうクラブを作っていきたいのかという部分をもう一度みんなで共有するべき】

【回答：鷺澤】絶対と言い切れることは当然できませんが、先ほど申し上げましたとおり5年間は変えないつもりで、クラブ経営の軸は揃えていきたいと思っています。秋春制のシーズン移行が2年後、国民スポーツ大会が3年後にあります。今後の5年間で大きな転機がありますので、我々はそれをチャンスと捉えて、それがクラブにとって経済的な基盤になり得るお金の循環を産み出していきたい、ビジネスチャンスを創っていきたいと考えてます。シーズンオフ時のキャンプ誘致もそうです。

次回加わります新しい役員2名は、実際に東京で資金集めをやられていた方々です。彼らの新しいノウハウ、彼らがやってきた経験、そういったものが会社にとって新しい資金を産み出し、今までの既存スポンサーの皆様とのプラスアルファを期待しています。

来年、トップチームの35周年、レディースチームの25周年となり、周年事業を企画しています。当然、イベントにお金がかかりますが、それ以上のリターンがあるような企画をしていきたいと思っています。今年の八戸戦では、パルセイロフェスと銘打ち、ホッケーシャツの配布や歌手の招聘など様々なイベントを行うことによって7,000人を超える方々にご来場をいただきました。フロントスタッフが頑張ってくれたと思います。

【Q. ここを勝てば波に乗れる。ここを踏ん張ればというところで波に乗れない、あるいは低迷してしまうというパターンがあるため、メンタル的な要素の強化が必要では？また、編成の進捗は？】

【回答：西山】例えばの話で、マインドのところについて、日本では2-0で勝っているときに一番危険なスコアだと言いますよね。しかし、マインドを変えることが必要だと思います。2-0は2点差で勝っている状況ですので焦る状況ではないです。決して緩くすることではなく、しっかり警戒しながらプレーするという事です。

編成の進捗については、まず、Jリーグ戦終了後5日以内に更新もしくは非更新を選手に通知しなければいけないというレギュレーションがあります。

その中で私が着任したのはそれ以降でした。大変クラブにご迷惑をかけたと思っていますが、一定の選手の更新、非更新というのは、クラブとして決断された状態で私が着任しました。実際選手を私が選んで連れて来れる幅は非常に少ない状況にありました。これは決して言い訳をするつもりではありませんが、全面的に私が評価したうえでのチーム編成になっているかといえばそうではない部分もあります。しかしながら、これはクラブの決定ですし、その決定を私も信じています。ネガティブなことでは全くありませんが、私がいじれる部分はそう多くないというのが事実としてあります。

かつ、先ほど申し上げましたとおり、フットボール面と経営面というのは非常に両輪として大事です。予算規模上、選手獲得に関してお金を費やすことができないという意味では、なかなか難しさを感じているところでもあります。従って、選手の獲得でチーム強化を図るというよりも、現有戦力をいかに成長させて強化していくか、編成ありきではなく育成ありきの1年になると考えています。

再来年以降に関しては、収益面でも様々な施策を取っていくというお話があり、そこで使える予算が増えるという算段をしており、チーム編成をより積極的な強化に繋げていきたいと考えています。来年に関しては、なかなか厳しい状況にあるというのは事実として言えるのかなと思います。

【Q. 経営体制だけでなく、事業の体制、マーケティング、ブランディング、セールス、その辺についてどういうお考えか教えていただきたい】

【回答：鷺澤】まず一つとしては、35周年、25周年イベントに関しては、これは年間通じていろんな形を仕掛けていきたいと思っています。新たにJ1・J2の経営に携わってこられた方を経営陣にお迎えしますので、我々には思いつかないようなことを一緒になって発案してもらえそうな体制を作りたいと思っています。また現在、プロモーションに関してはコンサルティングとまでは言いませんが、フロントスタッフと一緒に考えて、今後どう長期的な視点で盛り上げていくか、ということを行っています。外部からのアイデアを頂戴しながら、一緒になってやっていく体制が準備できたと思っています。

【回答：森脇】当然のことですが、毎年シーズン頭に年間の入場者計画を立てます。今シーズンは、5試合で集客の山を作ろうということで計画をしました。従いまして、外部からは「点」というように見えるかも知れませんが、我々の中では年間を通じてプランニングする中で5試合を設定しました。開幕戦、最終戦、大宮戦、信州ダービー、八戸戦です。我々の中では「線」でちゃんと繋がっているという認識をしています。

AC NAGANO PARCEIRO



PRIDE of NAGANO

AC NAGANO PARCEIRO

【Q. 5年後10年後、着実に人口が減っていくこの圏域でどのように集客を維持するのか、あるいはアカデミーに入ってくれる子どもたちを維持するのか、その辺のビジョンについて】

【回答：鷲澤】 ホームタウン活動に更に力を入れたいと考えています。ホームタウン16市町村だけでなく、さらにエリアを拡大していきたいと考えています。現在はホームタウンとして16市町村に名を連ねていただいていますので、地域密着活動を推進し、アカデミーに加入する子供たちを発掘していく必要があると思っています。また、レディースでは諏訪地域をはじめ、中南信エリアもターゲットになります。

【Q. 上田市はホームタウンにならないのか？】

【回答：小池】 AC長野パルセイロの地域コミュニティ推進部の副部長であり営業部長の小池と申します。上田市のご質問につきまして、現状をお話させていただきます。我々は上田市でスクール事業をさせていただいておりますが、同様に松本山雅さんもスクールやイベントを行っています。上田は古くからのサッカーの街です。昨年からは営業面では10社ほどスポンサーになっていただいた企業様がいらっしゃいます。今年、将来のホームタウンへの働きかけをさせていただきました。同様に、東御市にもお伺いしています。しなの鉄道沿線の市町さんにホームタウンにご賛同いただきましたら、より集客にも繋がると考えていますし、しなの鉄道様と一緒に取り組んでいます「パル鉄スルーパスチケット」をさらに普及させて、東信方面からのお客様にもご来場いただけるような形を目指しています。時間がかかるかも知れませんが、いずれはホームタウンになっていただくように働きかける活動を行っていますので、ご承知おきいただければと思います。

【Q. 営業を強化し、選手強化費をアップさせる話が昨年のサポカンでありました。その実績と反省は？】

【回答：鷲澤】 営業を強化し、選手強化費（人件費）をアップさせるという予算書を作りました。それを裏付ける収入を上げるんだという意気込みがあり、そういう予算を作ったんですが、実際にはそれほど収入が上がらなかったというのが実情です。それが債務超過に陥る可能性がある大きな要因になったことは確かで、経営として本当に反省しないといけない部分だと思っています。

【Q. 西山SDが地域への選手派遣やホームタウン活動をどのように考えているか】

【回答：西山】 基本、支えていただいている皆様があつての我々だと思っています。地域活動には積極的に参加すべきというスタンスです。もちろん、選手のコンディションが一番大事にされるべきと思っています。まだ藤本監督とは細かな話はできていませんが、監督もそのような考えだと思いますので、回数とタイミングなど、様々なことを協議しながら決定し、積極的に参加すべきと考えています。

【Q. 西山SDの今季のパルセイロのサッカーの印象について】

【回答：西山】 長野からオファーをいただいてからの話になるので、終盤の試合を主に見せてもらいました。順位的にかなり下の方で残留争いしている状況だったので、3バックで挑んでいる中で5バックになってしまっていた。押し込まれて、ボールを奪ってもなかなか前進できていない。前進しようと思っても前線でボールが取まらないので単発で終わってしまい、厚みのある攻撃ができていないというように思いました。しかし、良い試合もありました。例えばYS横浜戦。人が湧いてくるようなグループで、相手を上回るサッカーが前半できていたと思います。そこで決定力さえあればあのような試合にはなっていないと思います。しっかり勝ち切れる内容だったと思いますので、あの試合を見た限りでは僕は全然悪くないと思いました。なぜこのような順位にいるんだろうと思いました。結果引き分けで終わっているということは、そこにはそれ相応の理由があり勝ち切れてないのだろうと思っていました。終盤のアウェイでの北九州の試合もなかなか良い部分を出せず、押し込まれるだけで前進できないというのが散見されました。ボールを動かすことはできていても、何のためにボールを動かしているのか、前進するために動かしているのか、ということがなかなか表現できていないなと思いました。巧い選手はいますが、前進できているかどうかというのがポイントは、なかなかできていないという印象を持ってました。

AC NAGANO PARCEIRO



【Q. 周年事業は通常 10 年単位でやることでは？ 予算がないという中で、これをやる意義についてどうお考えか？ 周年事業よりも現在のクラブスタッフの人件費を上げる対応が先ではないか？】

【回答：鷺澤】 35 周年 25 周年に関しては、先ほども申し上げましたとおり、収益を上げたいと考えています。パルセイロにもっと色々な注目を浴びて話題にしてもらいたいという気持ちです。その 1 つとして、エルザの名前を出しながら、エルザとパルセイロへの理解をいただいてさらにファンになってもらうこと。結果的に収益が上がったという 1 年にしたいと思っています。

スタッフの人件費の問題もおっしゃられましたが、それもやります。当然、今頑張ってくれているスタッフの給与も系統だったものにしていきたくて見直しを行いました。ほぼ中途採用で運営してきましたので、それぞれの、その時の条件が色々あり、なかなか 1 つ 1 つのルールに則った体系になってなかったものもありますので、それも全部見直しをしました。既存スタッフの労力には報いてあげたいと思っています。

【Q. サポカンに参加するにあたり事前質問事項が明示されて、質疑応答がなされているのか気になります。組織の観点で質問ですが、例えば開幕にユニフォームが間に合わない騒動があったり、クラウドファンディングはたまたま達成したように思います。組織体制が気になりますので、試合以外のことも試合運営ボランティアの様にタスクフォース的な考えで手伝ってもらうなどお考えはあるでしょうか？】

【回答：鷺澤】 今回、事前に沢山の質問を頂戴しました。我々は全員プリントアウトして目を通しています。それを本当にこの 2・3 日ずっと見ながら考えて、先ほどの私からの説明をさせていただきましたので、できるだけ指摘があったことに応えようと思っています。この質問を皆様に開示するかどうかというのはちょっと難しい話かと思えます。本日の議事録は、できるだけ速やかにホームページに掲載をさせていただきます。

タスクフォースという話がございました。試合以外の部分で皆様にボランティア的なものをお願いをしていくということ、それは大変良いことだと思います。そういったことがホームタウンを含めてできるのであれば、そういうことも考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

【回答：森脇】 頂いたご質問、ユニフォームの件やクラウドファンディングの件につきましては全ての責任は私にあります。お詫び申し上げます。言い訳をするつもりはございませんが、その時にあった事実のお話はできます。

まずオーセンティックユニフォームが開幕に間に合わないというような話があった件は、結論として間に合いました、間に合わせました。本件の最初の折衝の際に、同サプライヤーの他クラブさん情報を私にいただけなかったため、情報不足が理由により、結果として誤ったジャッジをしてしまったことに対してお詫び申し上げます。その後、お詫びリリースを出し、再折衝して開幕にユニフォームお届けが間に合う対応をしていただいた次第です。

クラウドファンディングの件であるとか様々な情報発信がなされていなかったというご質問について。シーズン途中でスタッフ 2 名の退職があり、その業務を誰かがカバーしてチームを回すことを優先せざるを得ず、結果として私の広報業務に支障が出てしまいました。本件につきまして、お詫び申し上げます。

【Q. 芝生問題の話がありました。来年夏場以降の試合を東和田で開催するなどのお考えはないのでしょうか？】

【回答：鷺澤】 Jリーグに関しては試合開催におけるスタジアム基準の緩和、見直しがありませんので、佐久市での開催はできません。東和田での開催可能性はゼロではないとは思いますが、考えてみたいとは思いますが。WEリーグに関しては、試合開催におけるスタジアム基準の緩和の話がありますので、東和田や佐久、その他の会場で開催可能性がありますので、できればと考えています。

【鷺澤社長ご挨拶】

本日は本当にありがとうございました。今年ではなく、皆様方の 10 年間のフラストレーションを理解しているつもりです。私自身もパルセイロのサポーターとして同じ気持ちを抱いています。何としても、それを払拭できるこれからの数年間にしていきたいと思えます。

私の現風景は、地域から JFL に昇格した時のような、皆で喜び合った感動です。それを何としてもまずは J2 昇格で味わいたい。その時を我々が生きている間に絶対迎えたいと思っています。そんなに我慢しようとは思いません。ここにいる皆様と一緒に喜んで抱き合えるような、そんな年を絶対迎えるようにしますので、なにぞよろしくお願ひします。今日は本当にありがとうございました。